新専門医制度　内科領域

名古屋掖済会病院
基幹プログラム

名古屋掖済会病院
内科専門研修プログラム

目次

１．　理念・使命・特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page　1
２．　募集専攻医数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page　3
３．　専門知識・専門技能とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page　4
４．　専門知識・専門技能の習得計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page　4
５．　プログラム全体と各施設におけるカンファレンス・・・・・・・・・・・・page　8
６．　リサーチマインドの養成計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page　8
７．　学術活動に関する研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page　9
８．　コア・コンピテシーの研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page　9
９．　地域医療における施設群の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 10
１０．地域医療に関する研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 11
１１．内科専攻医研修（モデル）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 11
１２．専攻医の評価時期と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 12
１３．専門研修管理委員会の運営計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 14
１４．プログラムとしての指導者研修（FD）の計画・・・・・・・・・・・・・・page 14
１５．専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）・・・・・・・・・・・・・・・page 15
１６．内科専門研修プログラムの改善方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 15
１７．専攻医の募集および採用の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 16
１８．内科専門研修の休止・中断, プログラム移動, プログラム外研修の条件・・page 16
１９．専門医研修群の構成要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 19
２０．専門研修施設(連携施設・特別連携施設)の選択・・・・・・・・・・・・・page 19
２１．専門研修施設群の地理的範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 19

別添１：名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・page 20

別表１：各年次到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 21

新専門医制度　内科領域

名古屋掖済会病院基幹プログラム
名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，　愛知県名古屋医療圏の中心的な急性期病院である名古屋掖済会病院を基幹施設として，　愛知県西三河南西部、知多半島の医療圏・近隣医療圏にある様々な病床規模・機能を有する 10 の連携施設,4 つの特別連携施設,特定機能病院である 2 つの大学病院及び西三河地区にある急性期病院と掖済会関連施設 2 つを含む施設と連携して，　内科専門研修を経て愛知県の医療事情や地域事情を理解し，社会に貢献できる内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（異動を伴う 12 ヶ月の必修研修を含む）に豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを習得します。

3)　内科領域全般の診療能力とは,臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも習得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。
内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

名古屋掖済会病院は，　えきさい（導き，　たすける）という精神に基づき，　地域の皆様との信頼関係に成り立った，　安心で安全な医療をめざして診療を行っています。

1) この理念のもと，　以下の基本方針を常に意識して診療を行います。
   ① 高い倫理観を持つこと。
   ② 最新の標準的医療を実践すること。
   ③ 安全な医療を心がけること。
   ④ プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供すること。
   ⑤ 臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すること。
   ⑥ チーム医療を円滑に運営できること。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を習得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期

発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムは，愛知県名古屋医療圏の中心的な急性期病院である名古屋掖済会病院を基幹施設として，　同じ名古屋医療圏の様々な病床規模・機能を有する 6 つの連携施設の地域医療機能推進機構中京病院,愛知医療センター名古屋第二病院,大同病院、聖霊病院，　南生協病院,名古屋共立病院と知多半島、西三河南西部医療圏にある公立西知多総合病院、半田市立半田病院,常滑市市民病院、刈谷豊田総合病院と地域医療を支える 4 つの特別連携施設のかいせい病院，　名古屋西病院,小樽掖済会病院,長崎掖済会病院及び特定機能病院である名古屋大学医学部附属病院，　藤田医科大学病院が連携施設として参画することによって構成される内科専門研修プログラムです。

2) 基幹施設である名古屋掖済会病院は愛知県南西部に位置し，　地域の病診･病病連携の中核であり，　地域支援病院としても役割を果たしております。　一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

3) 本プログラムでは，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の習得をもって目標への到達とします。

4) 名古屋掖済会病院内科研修施設群の各連携医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，　専攻医 3 年目に 12 ヶ月の必修研修を連携施設で行います。　地域基幹施設 5 施設，　地域医療連携病院 5 施設，　特別連携施設 4 施設,特定機能病院 2 施設,計 16 施設と様々な病床規模・機能を有する地域に根ざした連携病院が参画しています。　本プログラムの研修により，超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，　さまざまな環境に対応できる内科キャリアパスを構築できます。

5) 基幹施設である名古屋掖済会病院とその連携施設での研修を行うことにより，　専攻医 2 年目終了時には，主担当者として『研修手帳（疾患群項目表）』に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも 56 疾患群,160 症例以上を経験し,日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することは可能です。更に，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴

要約を指導医の指導のもと作成することで，最初の 2 年間で専攻医 3 年修了要件をほぼ達成することが可能となっています。

6) 本プログラムに参画している連携施設において初期研修を行なった後に本プログラムへ参加する場合には，原則，その病院からプログラムを開始していくこととします。研修期間での経験症例数に応じて，基幹病院である名古屋掖済会病院で原則 3 ヶ月以上 12 ヶ月以下の研修を行なうこととします。

7) 本プログラムは名古屋掖済会病院専門研修規程のもと，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム提要に基づき実施されます。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，1）高い倫理観を持ち，2）最新の標準的医療を実践し，3）安全な医療を心がけ，4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

本プログラムの成果として，本プログラム履修者が名古屋掖済会病院の理念を習得して，さまざまな規模の病院を複合的に研修することによって，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得して，専門的診療能力を習得する上での礎を築き，社会に貢献できる医療人を育成します。

そして，愛知県南西部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得し， 希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度･先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 9 名とします。

1) 名古屋掖済会病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 9 名の実績があります。
2) 剖検体数は 2023 年度 9 体です。
3) 当院の内科系診療科は，消化器内科，循環器内科，糖尿病・内分泌内科，腎臓内科，呼吸器内科,脳神経内科,血液内科の 7 臓器に分かれています。

表．名古屋掖済会病院診療科別診療実績

実績	入院患者実数（人/2023 年）	外来延患者数（延人数/2023 年）
消化器内科	2,018	28,761
循環器内科	2,168	29,182
糖尿病・内分泌内科	378	11,353
腎臓内科	429	4,485
呼吸器内科	2,005	20,507
脳神経内科	1,572	15,776
血液内科	810	8,420

4) 代謝，内分泌，血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 9 名に対し十分な症例を経験可能です。
5) 内科の指導医は 22 名（うち総合内科専門医 18 名）で， 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P. 18「名古屋掖済会病院内科専門研修施設群」参照）。
6) 1 学年 9 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 56 疾患群，160 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
7) 専攻医 3 年目に研修する連携施設には，地域基幹病院 5 施設および地域医療連携病院 5 施設，特別連携施設 4 施設，特定機能病院 2 施設，計 16 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識**【整備基準 4】**［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます。
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

2) 専門技能**【整備基準 5】**［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

3 年間の研修プログラム概要

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	Group A		Group B		Group C		Group D	Group E		Group F		Group G
2 年目	Subspecialty 研修、およびプログラムの調整期間											
3 年目	異動に伴う必修研修											

Group A－G：グループ化したローテーション（数字は経験すべき疾患

Group A　(10)　:　「消化器」9「救急」1
Group B　(12)　:　「循環器」10「救急」2
Group C　(9)　:　「内分泌」4「代謝」5
Group D　(9)　:　「腎臓」7「膠原病および類縁疾患」2
Group E　(14)　:　「呼吸器」8「アレルギー」2「感染症」4
Group F　(10)　:　「神経」9「救急」1
Group G　(3)　:　「血液」3

・1 年目に消化器内科，循環器内科，糖尿病・内分泌内科，腎臓内科，呼吸器内科，脳神経内科，血液内科の 7 診療科のローテート研修を行う。
・総合内科 1（一般）総合内科Ⅱ（高齢者）総合内科Ⅲ（腫瘍）は，各科のローテート研修期間中に主担当医として十分経験できる。
・2 年目は原則として subspecialty 研修を行う。但し、経験症例が少ない場合は少ない症例の診療科の症例を経験できるように配慮する。
この調整は 1 年目の後半に本人の希望を考慮したうえで調整を図る。
・3 年目の異動を伴う必修研修を 12 ヶ月行います。
研修終了後は引き続き名古屋掖済会病院の医員として就労するものとし、異動期間を含め継続した雇用とみなす。

○専門研修（専攻医）1 年:
・症例：研修開始から 12 ヶ月の期間内で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち 56 疾患以上，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録することを目標とします。
・専門研修修了に必要な病歴要約を 29 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標とします。
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2 年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に 56 疾患以上，160 症例以上の登録を修了します。更に，専門研修修了に必要な病歴要約を，少なくとも年度末には 29 症例記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を修了します。

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる。

・360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3 年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします。但し， 修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）とします。この経験症例内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ登録します．既に登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します。但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。

・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます。

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります。

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

名古屋掖済会病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能習得は必要不可欠なものであり，習得するまでの最短期間は 3 年間（連携施設で 1 年間）とするが，習得が不十分な場合，習得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます。

2）臨床現場での学習**【整備基準 13】**

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥）参照）。この過程によって専門医に

必要な知識，技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

① 内科専攻医は，担当指導医もしくはSubspecialtyの上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

② 定期的（毎週1回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンス（月1回）を通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます。また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

③ 総合内科外来（初診を含む）とSubspecialty診療科外来（初診を含む）を少なくても週1回，1年以上担当医として経験を積みます。

④ 救命救急センターにて内科領域の救急診療の経験を積みます。

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。

⑥ 必要に応じて，Subspecialty診療科検査を担当します。

3）臨床現場を離れた学習**【整備基準14】**

1）内科領域の救急対応，2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，4）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，5）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて以下の方法で研鑽します。

① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設2023年度実績4回）
※ 内科専攻医は年に2回以上受講します。

③ CPC（基幹施設2023年度実績7回）

④ 研修施設群合同カンファレンス

⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：病診連携システム勉強会，中川区医師会胸部画像勉強会，中川区医師会腹部画像勉強会）

⑥ JMECC受講（基幹施設：2023年度開催実績1回）
※ 内科専攻医は必ず専門研修1年もしくは2年までに1回受講します。

⑦ 内科系学術集会（下記「7．学術活動に関する研修計画」参照）
など

4）自己学習**【整備基準15】**

「研修カリキュラム項目表」では，到達レベルを以下の様に定義しています。

・知識に関する到達レベル：
A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）
B（概念を理解し，意味を説明できる）

・技術・技能に関する到達レベル：
A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる）
B（経験は少数例だが，指導者の立ち会いの元で安全に実施，または判定できる）

C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）

・症例に関する到達レベル：

A（主担当医として自ら経験した）

B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した）

C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）

また,自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム**【整備基準 41】**

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，日時を含めて記録します。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に,通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

・専攻医による逆評価を入力して記録します。

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し,専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

名古屋掖済会病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.18「名古屋掖済会病院内科専門研修施設群」参照）。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である名古屋掖済会病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します。

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

名古屋掖済会病院内科専門研修施設群は基幹施設,連携施設,特別連携施設のいずれにおいても,

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。

② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）。

③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）。

④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。

⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて，以下を通じて内科専攻医としての教育活動を行います。

・初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
・後輩専攻医の指導を行う。
・メディカルスタッフを尊重し，指導を行う。

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

名古屋掖済会病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。

② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います。

③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。

④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

上記①～④を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。
なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です。これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です。その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

名古屋掖済会病院内科専門研修施設群は基幹施設,連携施設,特別連携施設のいずれにおいても指導医,Subspecialty 上級医とともに下記 1)～10)について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては,基幹施設である名古屋掖済会病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。名古屋掖済会病院内科専門研修施設群研修施設は愛知県名古屋医療圏，近隣医療圏および愛知県内の医療機関から構成されています。

名古屋掖済会病院は，愛知県名古屋医療圏の中心的な救急病院であるとともに，地域支援病院として地域の病診・病病連携の中核です。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次機能病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて, 急性期医療, 慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である名古屋大学医学部附属病院, 藤田医科大学病院，　地域基幹病院である地域医療機能推進機構中京病院，愛知医療センター名古屋第二病院，大同病院、刈谷豊田総合病院、半田市立半田病院および地域医療病院である聖霊病院，南生協病院，名古屋共立病院, 公立西知多総合病院、常滑市民病院、かいせい病院, 名古屋西病院, 小樽掖済会病院, 長崎掖済会病院で構成しています。

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では，名古屋掖済会病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療連携病院では，総合的な質の高い内科医療を研修・実践できる環境となっています。地域高次機能病院である名古屋大学医学部附属病院、藤田医科大学病院では、臨床研修など早期より学術的な機会を学ぶことが可能となります。地域医療機能推進機構中京病院、愛知医療センター名古屋第二病院、大同病院、刈谷豊田総合病院、半田市立半田病院、公立西知多総合病院、常滑市民病院では地域の中核となる高度急性期病院で、臓器別に専門医と指導医資格を持った上級医による高い水準の内科専門医教育を受けることができます。聖霊病院、名古屋共立病院、南生協病院では地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。また、聖霊病院では周産期センターと緩和ケア病棟（ホスピス聖霊）が併設されており、癌緩和療法や高齢者を中心とする二次救急、特に高齢者肺炎の研修が可能であります。名古屋共立病院では保存期から透析期を通じて、腎疾患患者の合併症の対策を含めた総合的な診療を経験できます。癌診療については、放射線外科でのガンマナイフ、ノバリスによる定位放射線治療やハイパーサーミア治療などを経験できます。南生協病院では同じ法人内に回復期リハ病院、在宅診療所、4 つの内科系診療所および訪問看護ステーション、老人保健施設、高齢者住宅など医療・介護の多機能の複数の施設を有しており介護を含めた医療や在宅医療の研修が可能である。

特別連携施設のかいせい病院では、老人保健施設、デイサービスなども併設されており地域に密着した医療の研修が可能である。名古屋西病院では、一般病床、療養病床を有しており、急性期から療養期までの研修が可能である。小樽掖済会病院では、一般病床と消化器病センターを有しており、地域の消化器疾患の研修が可能である。 長崎掖済会病院では、一般病床、地域包括ケア病床を有し、急性期から回復期に至る研修が可能である。

名古屋掖済会病院内科専門研修施設群別添参照は，異動を伴う研修は 3 年目に行われ県内の施設は最も距離が離れている常滑市民病院は愛知県常滑市にありますが，名古屋掖済会病院から電

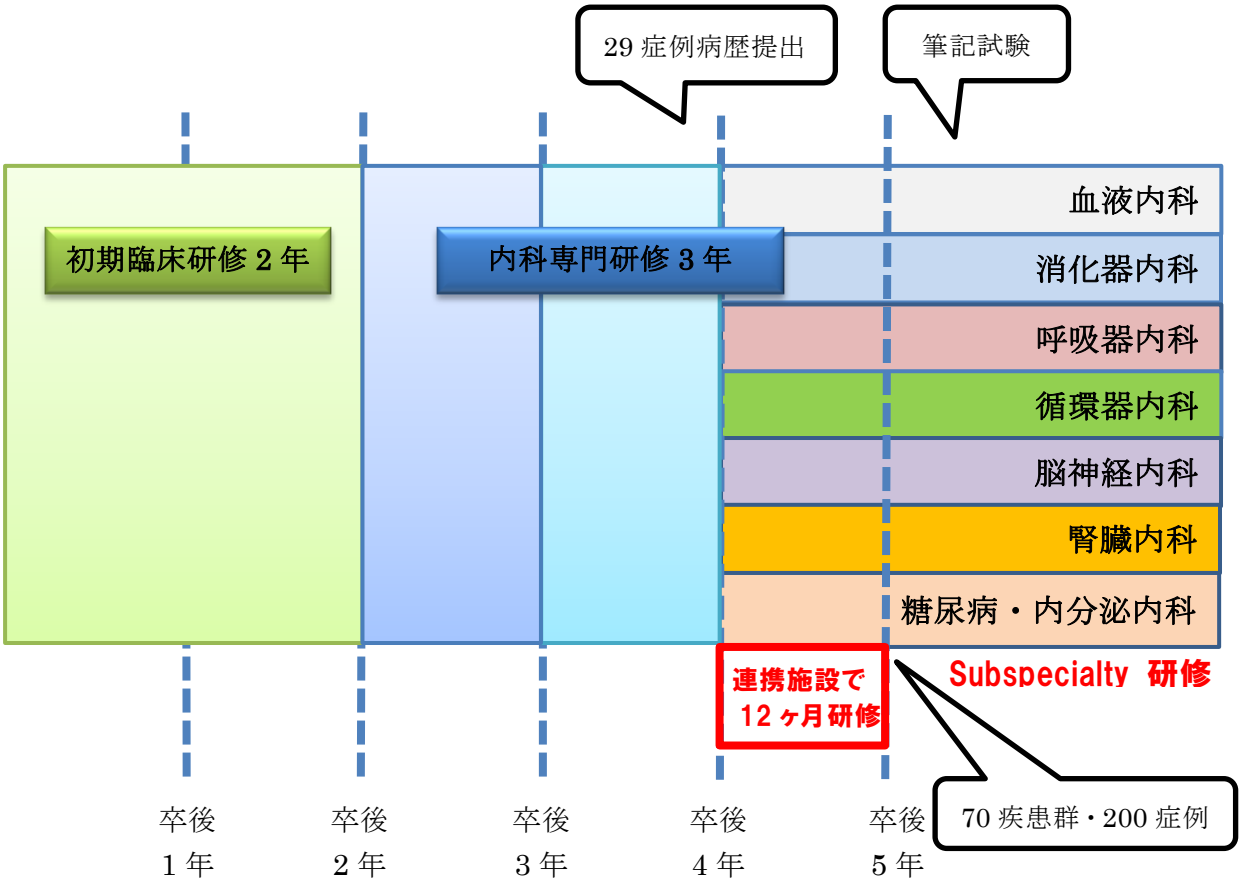
車を利用して 1 時間 30 分程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。また、日本海員掖済会の施設は遠方になりますが同じ法人内の異動となり連携に支障はきたしません。

10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

名古屋掖済会病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

名古屋掖済会病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】



名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム（概念図）

・基幹施設である名古屋掖済会病院内科で，専攻医は，2 年目修了時には，「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち 56 疾患以上，160 症例以上を経験し，3 年間で 70 疾患群，200 症例以上の経験を目指します。

・更に，1 年目で専門研修修了に必要な病歴要約の 29 症例完成を目指し，2 年目終了時がその期

限となります。

・3 年目に 12 ヶ月の期間，　連携施設で研修を行います。

研修終了後は引き続き名古屋掖済会病院の医員として就労するものとし、移動期間を含め継続した雇用とみなされ、手当等の待遇に反映する。

12.　専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

(1) 名古屋掖済会病院臨床研修センターの役割

・名古屋掖済会病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。

・名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。

・3 ヶ月ごとに日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・6 ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します。また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・6 ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

・年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します。

・臨床研修センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います。担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します。評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で，臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います。

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。

・専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修了時には 70 疾患群

のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います。

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります。専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに名古屋掖済会病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準**【整備基準 53】**

1) 担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，以下ｉ)～vi)の修了を確認します。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済み）

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講

vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2) 名古屋掖済会内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 ヶ月前に名古屋掖済会病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および

「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。なお，「名古屋掖済会病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「名古屋掖済会病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します。

13.　専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】（「名古屋掖済会病院内科専門研修管理員会」参照）

1）名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設,特別連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は,統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員,で構成されます。また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.19 名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）名古屋掖済会病院内科専門研修管理委員会の事務局を，名古屋掖済会病院臨床研修センターにおきます。

ii）名古屋掖済会病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設,特別連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと活動するとともに専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 12 月頃に開催する名古屋掖済会病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設，連携施設,特別連携施設ともに毎年 4 月 30 日までに，名古屋掖済会病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績

a）病院病床数，b）内科病床数，c）内科診療科数，d）1ヶ月あたり内科外来患者数，e）1ヶ月あたり内科入院患者数，f）剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a）前年度の専攻医の指導実績，b）今年度の指導医数/総合内科専門医数，c）今年度の専攻医数，d）次年度の専攻医受け入れ可能人数

③ 前年度の学術活動

a）学会発表，b）論文発表

④ 施設状況

a）施設区分,b）指導可能領域,c）内科カンファレンス,d）他科との合同カンファレンス，e）抄読会，f）机，g）図書館，h）文献検索システム，i）医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j）JMECC の開催

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本内科学会総合内科専門医　16 名，　日本消化器病学会消化器専門医　3 名，　日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医　3 名，　日本循環器学会循環器専門医　6 名，日本内分泌学会専門医　2 名，日本糖尿病学会専門医　1 名，日本腎臓病学会専門医　2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医　5 名,日本血液学会血液専門医　3 名,日本神経学会神経内科専門医　5 名，日本アレルギー学会専門医（内科）　3 名など

14.　プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

15.　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1 年目，2 年目は基幹施設である名古屋掖済会病院の就業環境に，専門研修（専攻医）3 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.18「名古屋掖済会病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である名古屋掖済会病院の整備状況：

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・名古屋掖済会病院常勤医師として労務環境が保障されています。
・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。
・ハラスメント委員会が院内に整備されています。
・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.18「名古屋掖済会病院内科専門施設群」を参照。また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります。

16.　内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会，名古屋掖済会院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

・担当指導医，施設の内科研修委員会，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）

を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムを評価します。

・担当指導医，各施設の内科研修委員会，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます。

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

名古屋掖済会病院臨床研修センターと名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会は，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17.　専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，内科専攻医書類選考および面接を行い，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）名古屋掖済会病院臨床研修センター　後期研修管理室

E-mail:kouki-kenshu@ekisai.or.jp　　HP:http://www.nagoya-ekisaikaihosp.jp

名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います。

18.　内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

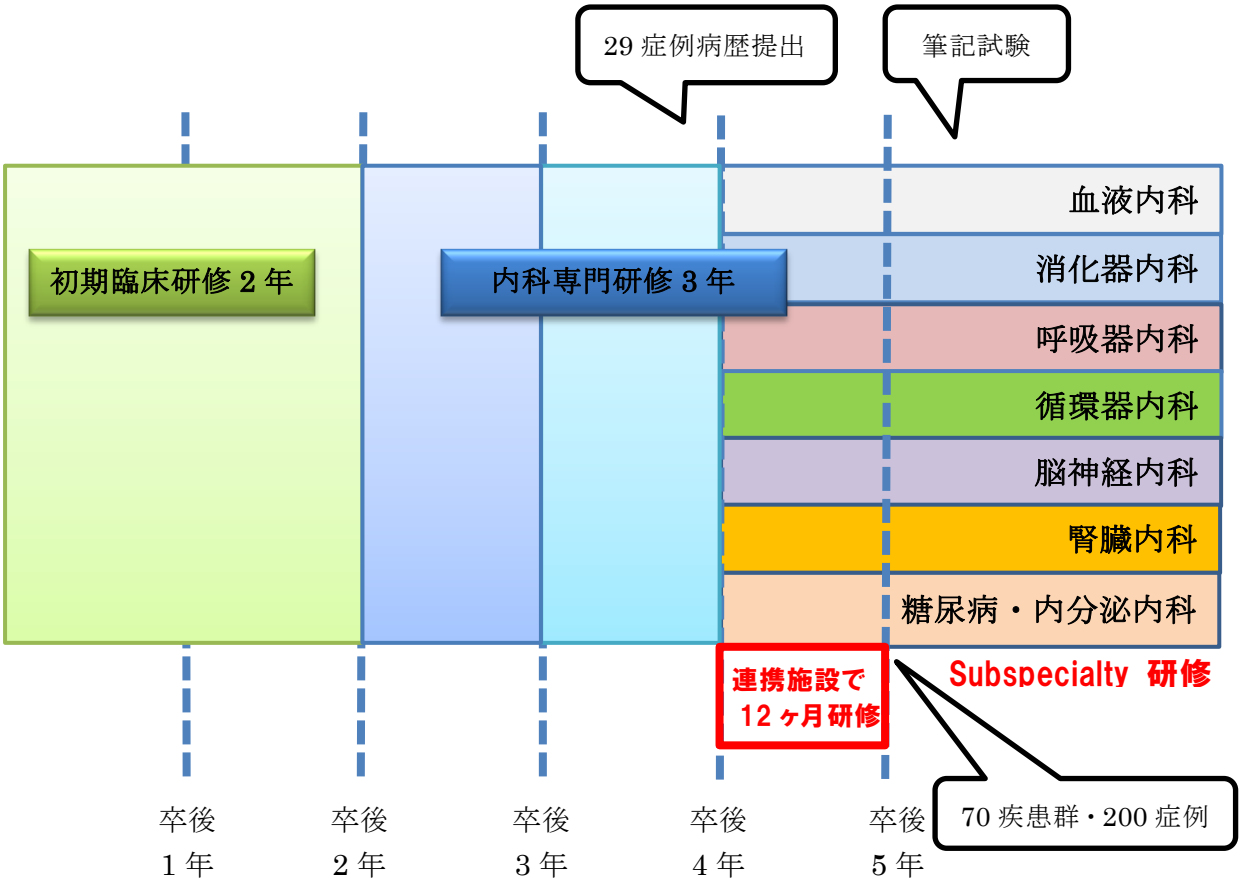
やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します。これに基づき，名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから名古屋掖済会病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から※名古屋掖済会院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに名古屋掖済会内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており,かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば,研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実

績に加算します。留学期間は，原則として研修期間として認めません。

名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム
研修期間：3 年間（内, 連携施設 12 ヶ月）



19.　専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。名古屋掖済会内科専門研修施設群研修施設は愛知県名古屋医療圏，知多半島・西三河南西部の近隣医療圏および愛知県の医療機関から構成されています。

名古屋掖済会病院は，愛知県名古屋医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である名古屋大学医学部附属病院，藤田保医科大学病院，　地域基幹病院である地域医療機能推進機構中京病院，名古屋第二赤十字病院，刈谷豊田総合病院、半田市立半田病院および地域医療病院である聖霊病院，南生協病院，名古屋共立病院，公立西知多総合病院、常滑市民病院および特別連携病院のかいせい病院，名古屋西病院，小樽掖済会病院，長崎掖済会病院で構成しています。

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では，名古屋掖済会病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療病院および特別連携病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

20.　専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 専攻医 1 年目の後半に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します。
- 専攻医 3 年目に 12 ヶ月の期間，　連携施設で研修をします。
- 病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間は，　研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

21.　専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

愛知県名古屋医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。最も距離が離れている常滑市民病院は愛知県常滑市にありますが，名古屋掖済会病院から電車を利用して，1 時間 30 分程度の移動時間であり移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

別添　1

名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2024 年 4 月現在）

名古屋掖済会病院

島　浩一郎（プログラム統括責任者，呼吸器分野責任者）
小島　由美（プログラム管理者，委員長,血液・膠原病・感染分野責任者）
加藤　俊昭（循環器分野責任者）
髙橋　典男（内分泌・代謝分野責任者）
大橋　　暁（消化器分野責任者）
中嶋　　貴（腎臓分野責任者）
谷村　大輔（救急分野責任者）
山守　芳正（事務局代表，臨床研修センター事務担当）

連携施設担当委員

名古屋大学医学部附属病院	橋本　直純
藤田医科大学病院	後藤　康洋
中京病院	加田　賢治
愛知医療センター名古屋第二病院	東　慶成
刈谷豊田総合病院	吉田　憲生
大同病院	近藤　和久
半田市立半田病院	神野　泰
聖霊病院	丹羽　統子
南生協病院	鶴田　吉和
名古屋共立病院	春日　弘毅
公立西知多総合病院	牧野　光恭
常滑市民病院	野﨑　裕広

特別連携施設担当委員

かいせい病院	菅　　榮
名古屋西病院	山本　俊勇
小樽掖済会病院	勝木　伸一
長崎掖済会病院	

オブザーバー

内科専攻医代表 1	**********
内科専攻医代表 2	**********

別表 1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3
症例数※5		200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

名古屋掖済会病院内科専門研修施設群概要

1)専門研修基幹施設

名古屋掖済会病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･名古屋掖済会病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります. ･ハラスメント委員会が病院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は25名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）），プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2023 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（病診連携システム勉強会，中川区医師会胸部画像勉強会，中川区医師会腹部画像勉強会）定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2023年度実績7体）を行っています.

認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験管理室を設置し，定期的に委員会を開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023年度実績17演題）をしています.
指導責任者	島　浩一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋掖済会病院は名古屋市南西部にあり,東海地区ではじめて認可された救命救急センターを併設した高度急性期病院であります.年間約10,000例の救急車搬入実績があり,救急疾患を含めた内科専門医研修に必要なほとんどの症例を，7つの診療科（循環器内科,呼吸器内科,脳神経内科,消化器内科,糖尿病・内分泌内科,腎臓内科,血液内科,腫瘍内科）の豊富な経験を有する上級医の指導のもと経験することが可能です．新制度発足以前より後期研修医の希望に配慮したフレキシブルなローテート研修を行ってきており内科総合的な研修体制を整えてきた実績があります.各診療科のカンファレンスは充実しています．19 床の緩和ケア病床を有する癌拠点病院でもあり,常勤病理医も2名在籍しており,キャンサーボードなどの多職種の検討会も多く実施されておりチーム医療を推進しております.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　25名 日本内科学会総合内科専門医　16名 日本消化器病学会消化器専門医　3名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医　3名 日本循環器学会循環器専門医　6名 日本不整脈心電図学会　1名 日本糖尿病学会専門医　1名 日本内分泌学会専門医　2名 日本腎臓病学会専門医　2名 日本透析医学会透析専門医　2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　5名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医　4名 日本血液学会血液専門医　3名 日本神経学会神経内科専門医　5名 日本認知症学会専門医　1名 日本脳卒中学会専門医　1名 日本臨床神経生理学会専門医　1名 日本アレルギー学会専門医（内科）　3名 日本救急医学会専門医（内以外）　5名

外来・入院患者数	外来患者　26,282 名（1 ヶ月平均）　入院患者　15,998 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医教育指定病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医認定施設 日本血液学会認定医研修施設 日本腎臓学会専門医研修施設 日本透析医学会専門医教育関連施設 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設 日本神経学会認定医教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本胆道学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本プライマリ・ケア学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本心血管インターベーション治療学会認定研修施設 日本脳卒中学会専門医研修教育病院 日本アフェレシス学会認定施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

2) 専門研修連携施設

1. 刈谷豊田総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・多彩な文献（雑誌文献, オンラインジャーナル, 大学図書館等とのネットワーク）入手　　が可能な図書室があります. インターネット環境が整備され, 図書室・医局にそれぞれ共用のパソコンが設置されています. ・常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事グループ）があります. ・ハラスメント委員会（2016 年 4 月設置）があります. ・女性医師専用の休憩室, 更衣室（シャワー室含む）, 仮眠室, 当直室が整備されています. ・敷地内にある院内保育所（病児保育・病後時保育を含む. 3 才まで）を利用できます.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は15名在籍しています（うち総合内科専門医は14名）. ・内科専門研修プログラム管理委員会は, 下部組織である研修委員会および連携施設の研修委員会と連携し, 専攻医の研修を管理し, その最終責任を負います. ・医療倫理・医療安全・感染対策講演会を定期的に開催（2022年度実績：医療倫理0回, 医療安全各3回, 感染対策各3回）し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPCを定期的に開催（2022年度実績9回）し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2022年度実績合計2回（消化器1回, 呼吸器1回）. ・プログラムに所属する全専攻医にＪＭＥＣＣ受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち, 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています. ・70疾患群のうち, ほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2020年度5体、2021年度5体、2022年度11体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・倫理委員会を設置し, 定期的に開催（2021年度実績7回、2022年度実績5回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に, 年間で計3演題以上の学会発表（2020年度実績11演題、2021年度7演題、2022年度11演題）をしています.
指導責任者	武田　直也 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は西三河南部西医療圏のDPC特定病院であり, 総床704床, 救命救急センターや愛知県がん診療拠点病院に認定されており, 2016年9月に地域医療支援病院として認可されました. 内科は330床を受け持っており, 消化器内科, 呼吸器・アレルギー内科, 循環器内科, 脳神経内科、腎臓内

	科,内分泌・代謝内科で構成されています.診療圏が広く救急車も年間8000台以上も受け入れており,主要臓器疾患については症例数が豊富で,日常診療から救急まで十分な経験が可能と考えます.また専門臓器に分類できない症例を受け持って頂くことで,感染症や総合内科に該当する疾患も経験できます.常勤医のいない血液内科については名古屋大学から週2回の外来（診療支援）常勤医のいない膠原病内科については大同病院（名古屋）から週1回の外来（診療支援）をして頂いています.どの診療科をローテートしていただいても上級医と気軽に相談していただける体制を整えておりますので,安心して研修して下さい.院内で講演会,緩和ケアやJMECCなどの研修会,CPCが年数回ずつ行われており,診療技術以外の知識も身につけて頂けると思います.内科専攻医は常勤医員の身分で,総合内科に所属します.医局には,仮眠室やシャワー室,女性専用スペースが確保されています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名,　日本内科学会総合内科専門医 14 名,　日本消化器病学会消化器専門医 7 名,　日本肝臓学会専門医 2 名,　日本循環器学会循環器専門医 5 名,　日本内分泌学会専門医 1 名,日本糖尿病学会専門医 1 名,日本腎臓病学会専門医 1 名,　日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名,　日本神経学会神経内科専門医 2 名,日本アレルギー学会専門医 2 名,　日本リウマチ学会専門医 2 名,　日本救急医学会救急科専門医（内科以外）2 名
外来・入院患者数	外来患者　35,520 名（1 ヶ月平均）,入院患者　17,414 名（1 ヶ月平均）＜病院全体＞
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく,超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内科内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設

	日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本東洋医学学会研究施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 腹部ステントグラフト実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本栄養療法推進協議会・NST 稼働施設

2. 宏潤会　大同病院

（外来診療部門　だいどうクリニック（特別連携施設）を含む）

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・社会医療法人宏潤会常勤医師または非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に隣接し院内保育所（大同保育所おひさま）があり、入所対象は職員（パートタイム職員を含む）の子で、延長保育、夜間保育、病児・病後児保育にも利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が23名在籍しています。 ・名古屋掖済会病院内科専門研修プログラム管理委員会（循環器内科部長、総合内科専門医かつ指導医）は、大同病院院内に設置されている名古屋掖済会病院内科専門研修委員会委員長を兼務しており、基幹施設、連携施設との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後研修支援センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習会を開催し、専攻医に年度2回の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023年度実績　医療倫理 2回、医療安全 2回、感染対策 2回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023年度実績　9回) ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（基幹施設開催実績：例年20回前後開催　病診連携の会、消防合同カンファレンス、感染症症例検討会、専攻医セミナー症例検討　など） ・全内科専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（開催実績：2015～2023年度　受講者合計49名） ・日本専門医機構によるサイトビジット（施設実地調査）に大同病院卒後臨床研修支援センターが対応します。 ・大同病院の外来診療部門であるだいどうクリニックでは、大同病院での研修時の外来研修を行い、外来から入院への一連の診療の流れに沿った研修が可能となるよう研修指導を行います。 ・志望するSubuspecialtyにかかわらず、内科各科のローテーション研修を可能としています。
3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70疾患群のうちほぼ全疾患群（最少でも56以上の疾患群)について研修できます. ･専門研修に必要な内科剖検（2021年度実績18体，2022年度21体，2023年度15体)があります.

4)学術活動の環境	教育活動 ・初期臨床研修医や医学部学生の指導には、専攻医必須の役割として関わります。 ・後輩専攻医の指導機会があります。 ・メディカルスタッフへの指導機会があります。 学術活動 ・内科系の学術集会や企画（日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会等）に年2回以上参加するための参加費補助があります。 ・筆頭演者または筆頭著者として、3年間で2件以上の学会発表あるいは論文発表を行うため、内科系の学術集会や企画への参加費補助があります。 ・症例報告作成や基礎研究を行うために必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023年度実績12回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023年度実績12回）しています。
指導責任者	近藤　和久 【内科専攻医へのメッセージ】 大同病院は、名古屋市南部から知多半島北部医療圏の中心的な急性期病院であると同時に、関連施設はじめ地域の医療・福祉施設と連携した地域包括ケアの中心的役割を併せ持つ地域基幹病院です。院内では各科のカンファレンスや各種セミナー・勉強会を頻回に開催しており、さらにキャンサーボードなどの多職種合同カンファレンスなども実施しています。 大同病院での研修は、研修している診療科以外の科や総合内科の患者を同時に主担当医として診ることを基本としますが、自身のsubspecialty以外に希望の研修科があればローテーション研修も可能です。その場合でも週に1日「サブスペ研修日」を設ける事が可能であり、generalな研修を行いながらもsubspecialな研修を並行して行う事ができます。 大同病院での研修では、多様な形態での内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名 総合内科専門医 15 名 消化器病専門医 6 名 消化器内視鏡専門医 6 名 肝臓専門医 2 名 日本胆道学会指導医 1 名 日本膵臓学会指導医 1 名 循環器専門医 6 名 内分泌代謝科専門医 2 名 糖尿病専門医 2 名 腎臓専門医 5 名

	呼吸器専門医 4 名 血液専門医 1 名 神経内科専門医 2 名 リウマチ専門医 5 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 がん薬物療法専門医 2 名 内科専門医 6 名
外来・入院患者数 （2023 年度）	内科系外来患者 2,547 名/月，（外来部門だいどうクリニック 7,154 名/月），内科系入院患者実数 433 名/月
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本胆道学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設　　など

3. 公立西知多総合病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・公立西知多総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩スペース、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が7名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績　医療倫理　0回、医療安全　4回、感染対策　3回） ・研修施設群合同カンファレンス（2022年度　1回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績　1回） ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022年度実績5体）を行っています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2021年度実績1演題）
指導責任者	牧野　光恭 【内科専攻医へのメッセージ】 当施設は、平成27年5月に開院した知多半島北西部地域の中核病院で、この地域の救急・急性期医療を担って地域連携を推進しております。機器は最新のものが多く入っており、検査や治療も迅速に対応可能でＩＣＵ管理も充実しております。研修は初期研修を含め各個人の意向に合わせた柔軟なもので、診療科間の垣根も低く症例数も豊富なため、個人の希望に応じた充実した研修が可能です。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　7名 日本内科学会総合内科専門医　13名 日本消化器病学会消化器病専門医　3名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医　3名 日本循環器学会循環器専門医　5名 日本糖尿病学会糖尿病専門医　2名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医　1名 日本腎臓内科学会腎臓専門医　4名 日本透析学会透析専門医　1名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　2名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医　2名 日本アレルギー専門学会アレルギー専門医　2名
外来・入院患者数	外来患者　16,850　名（1ヶ月平均）、入院患者　9,604　名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC） 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本胆道学会指導施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会准教育施設

4. 社会福祉法人聖霊会　聖霊病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績 2回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2019年度実績 3回）
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2021年度実績1演題）
指導責任者	丹羽　統子 【内科専攻医へのメッセージ】 聖霊病院は名古屋市東部の住宅・教育環境の良い地域にあって、地下鉄いりなか駅から徒歩数分のアクセスのよい非常に恵まれた場所に立地している地域密着型の病院です。急性期一般病棟は110床、緩和ケア病棟15床、地域周産期母子センター37床、地域包括ケア病棟34床。当院には4つの大きな柱があります。生命の始まりと終わりを大切に、周産期センターとホスピス聖霊。命に寄り添う、高齢者を中心とする二次救急、特に大腿骨近位部骨折や高齢者肺炎。そして、命を繋ぐ、地域包括ケア病棟を中心とするポスト・アキュートな医療です。それらを支えるのが、東海地区唯一のカトリック系病院としての精神性に基づいた、一人ひとりを大切にする、

	温かい医療の提供です。名古屋桧済会病院と中京病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　1名 日本内科学会総合内科専門医　4名 日本消化器病学会消化器専門医　1名 日本循環器学会循環器専門医　2名 日本内分泌学会専門医　0名 日本糖尿病学会専門医　1名 日本腎臓病学会専門医　0名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　1名 日本血液学会血液専門医　1名 日本神経学会神経内科専門医　0名 日本アレルギー学会専門医（内科）　1名 日本リウマチ学会専門医　0名 日本感染症学会専門医　0名 日本救急医学会救急科専門医　1名 日本認知症学会専門医　1名
外来・入院患者数	外来患者　6,765名（1ヶ月平均）、入院患者　4,243名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

5. 独立行政法人地域医療機能推進機構　中京病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･任期付常勤職員として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス室）があります. ･セクハラ・パワハラ委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は25名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），内科専門研修委員長（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて,基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と専門医研修推進室を設置します. ･地域参加型のカンファレンス・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. （2022年度実績　医療倫理1回，医療安全2回，感染対策2回） ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2022年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.　（2022年度　受講者2名） ･日本専門医機構による施設実地調査に専門医プログラム推進室が対応します. ･特別連携施設（名南病院）の専門研修では，電話や週1回の中京病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。研修に必要な70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，研究部，閲覧室などを整備しています. ･倫理委員会や治験管理室が整備され，臨床研究体制が整っています ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2022年度実績5演題）をしています.
指導責任者	藤城　健一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は名古屋市南部地域および知多半島を中心とした地域の中核となる高度急性期病院で、臓器別に専門医と指導医資格を持った上級医による高い水準の内科

	専門医教育を受けることができます。もともと細やかな初期研修指導で定評がありましたが、2005年より2年間の全科総合初期研修後、1年間の内科総合研修を経てサブスペシャリティ診療内科医の研修へと進む体制を整え、積極的な内科総合後期研修にも努めてきた実績のある病院です。当院は全国に約450施設あるがん診療連携拠点病院の一つに指定されており、がん診療に重点を置いています。また、国の4疾患に指定されているがん以外の糖尿病・ 循環器病・脳卒中に加え、腎臓病・膠原病リウマチに関してもセンター化し、関連複数診療科による横断的診療や多職種による包括的カンファレンスが効率的に行えるようにするなど、内科全体の検討会などともに各内科専門的視点のみならず総合的な質の高い内科医療を研修・実践できる環境を整えています。加えて、1次・2次救急医療は勿論、3次救急に特化した救急科があり、様々なレベルの救急医療における内科専門医としての医療が経験できます。また、高齢者医療と介護の需要の増大に対応するべく老人保健施設も併設しており、急性期治療が終了した患者の療養に対する医療支援も実践できます。禁煙外来や併設健診センターでの患者指導といった疾病予防医療も積極的に実践できます。疾病予防から一般内科・内科専門および高度救急医療・回復期医療といった時代のニーズにあった内科専門医を養成するプログラムを提供します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医25名，日本内科学会総合内科専門医24名 日本消化器病学会消化器専門医7名，日本循環器学会循環器専門医5名， 日本内分泌学会専門医4名，日本糖尿病学会専門医3名，日本腎臓病学会専門医4名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，日本血液学会血液専門医2名， 日本神経学会神経内科専門医5名，日本アレルギー学会専門医（内科）1名、 日本リウマチ学会専門医2名，日本感染症学会専門医1名， 日本救急医学会救急科専門医7日名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 22,629 名（1 ヶ月平均）　入院患者 13,300 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

	日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 ＩＣＤ/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　など

6. 常滑市民病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が常滑市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が　4名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績　医療倫理　0回、医療安全　4回、感染対策　2回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績　3回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績　0回）
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で１演題以上の学会発表をしています。（2022年度実績　0　演題）
指導責任者	富田　亮 【内科専攻医へのメッセージ】 常滑市民病院は愛知県知多半島中部の中心的な急性期病院であり、西三河医療圏にある連携施設・特別連携施設とで、内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として入院から退院まで経時的に、診断、治療の流れを通じて、社会的背景、療養環境調節をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　4名 日本内科学会総合内科専門医　6名 日本消化器病学会消化器専門医　0名 日本循環器学会循環器専門医　2名 日本内分泌学会専門医　0名 日本糖尿病学会専門医　0名 日本腎臓病学会専門医　2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　2名 日本血液学会血液専門医　0名 日本神経学会神経内科専門医　0名 日本アレルギー学会専門医（内科）　1名 日本リウマチ学会専門医　0名 日本感染症学会専門医　0名 日本救急医学会救急科専門医　0名
外来・入院患者数	外来患者　3,820 名（1ヶ月平均）　入院患者　2,091 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー専門医教育研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

7. 総合病院　南生協病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 8 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績 医療倫理4 回、医療安全10 回、感染対策10 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（20212年度実績4 回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度予定3 回）
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2022年度　実績5演題）
指導責任者	プログラム統括責任者　水野　裕元 【内科専攻医へのメッセージ】 南生協病院は2010年に現在の南大高駅前に移転しました。移転では「地域の協同でつくる　健康なまちづくり支援病院」をかかげ地域住民の意見を集めました。その結果、「あいちまちなみ賞」「福祉建築賞」他を「地域住民の声を集めた病院」として評価されました。移転後は名古屋市緑区を中心とした名古屋南部地域の二次救急医療を担い、救急搬送、外来患者数が増加しています。また同じ法人内に回復期リハビリ病院、在宅診療所、4つの内科系診療所および訪問看護ステーション、老人保健施設、高齢者住宅など医療・介護の多機能の複数の施設を有し

	ており、病病連携、病診連携および施設との連携や地域住民との交流にも力を入れています。地域の高齢化を受けて、「病院で治す」から「地域で治し支える」医療・介護の地域住民を巻き込んだ実践は、2014年度には厚生労働省の「地域包括ケア実践100のモデル」にも選ばれました。このような背景があり、当院では入院中のみだけではなく、地域の生活まで幅広い視野を養う研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　8名 日本内科学会総合内科専門医　6名 日本消化器病学会消化器専門医　2名 日本循環器学会循環器専門医　2名 日本内分泌学会専門医　0名 日本糖尿病学会専門医　1名 日本腎臓病学会専門医　1名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　1名 日本血液学会血液専門医　0名 日本神経学会神経内科専門医　0名 日本アレルギー学会専門医（内科）　0名 日本リウマチ学会専門医　0名 日本感染症学会専門医　0名 日本救急医学会救急科専門医　0名
外来・入院患者数	外来患者　16,231 名（1 ヶ月平均）、入院患者　469 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 など

8. 名古屋共立病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルス、ハラスメント等に関して適切な相談、助言ができるよう、社内および社外にも倫理相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が4名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2022年度実績　医療倫理0回、医療安全4回、感染対策2回) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2022年度実績　4回)
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、代謝、腎臓、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2021年度実績　1演題、2022年度実績　4回)
指導責任者	春日　弘毅 【内科専攻医へのメッセージ】 腎臓内科、循環器内科、消化器内科の常勤体制です。グループで3000名の透析患者を診療しており、保存期から透析期を通じて、腎疾患患者の合併症対策を含めた、総合的な診療を経験できます。また、循環器内科では多くの冠動脈疾患の治療を手掛け、更に血管外科、形成外科、皮膚科などとチームを形成し、糖尿病や腎不全患者で特に問題となってくるPADに対するﾄｰﾀﾙﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄを経験できます。癌診療についても、消化器内科を中心とした外来化学療法、放射線外科でのガンマナイフ、ノバリスによる定位放射線治療、ハイパーサーミア治療などを実施しており、他の施設ではあまり経験できない治療

	も経験できます。 一方で、地域の病院として、グループ内に回復期リハビリテーション病院、療養型病院、老人保健施設、グループホーム、小規模多機能事務所、介護付き有料老人ホーム、デイサービス、訪問看護ステーションなどを持ち、急性期から回復期、慢性期、在宅医療と施設での連携を経験することができます。 大規模総合病院では体験できない、より地域の患者さんに近い位置での医療の実務を学ぶことができ、一方で腎臓、循環器、消化器領域の専門医を目指す医師には、十分な症例と手技などを含めた専門的な経験をすることが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　4名 日本内科学会総合専門医　10名 日本消化器病学会消化器専門医　5名 日本循環器学会循環器専門医　3名 日本内分泌学会専門医　0名 日本糖尿病学会専門医　0名 日本腎臓病学会専門医　5名 日本呼吸器学会専門医　0名 日本血液学会専門医　0名 日本神経学会専門医　0名 日本アレルギー学会専門医（内科）　0名 日本リウマチ学会専門医　0名 日本感染症学会専門医　0名 日本救急医学会救急科専門医　1名 日本肝臓学会専門医　2名
外来・入院患者数	外来患者6,681名（1ヵ月平均）　　入院患者3,455.7名（1ヵ月平均延数）
経験できる疾患群	13領域、70疾患群のうち、総合内科Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、消化器、循環器、代謝、腎臓、膠原病、感染1,3、救急について、経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本腎臓病学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本肝臓学会認定施設

9. 名古屋大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度大学型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師もしくは医員として労務環境が保障されます。 ・メンタルヘルスに適切に対処します。 ・ハラスメントに適切に対処します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が78名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2021年度実績　医療倫理0回、医療安全4回、感染対策4回) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2021年度実績10回)
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	川嶋　啓揮 【内科専攻医へのメッセージ】 当施設は名大病院基幹プログラムを作成しています。一度病態内科のホームページ(http://www.med.nagoya-u.ac.jp/naika/index.html)をご覧いただければと思います。名古屋大学の内科専門医育成の考え方を理解いただけると考えています。施設カテゴリーでは、”アカデミア”と呼ばれるものに分類されることが多いです。名大病院へ異動を行なう研修を行なうメリットは、【アカデミアへのアーリー・エクスポージャー】ができることだと思います。平成28年1月に名大病院は「臨床研究中核病院」に認定されました。皆さんが初期研修・内科専攻医研修期間の臨床経験から芽生えた臨床的課題を解決

	する方法を、この【アカデミアへのアーリー・エクスポージャー】からイメージをつかんでもらえるとよいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 78 名、日本内科学会総合専門医 112 名、日本消化器病学会専門医 56 名、日本循環器学会専門医 35 名、日本内分泌学会専門医 14 名、日本糖尿病学会専門医 17 名、日本腎臓病学会専門医 28 名、日本呼吸器学会専門医 70 名、日本血液学会専門医 19 名、日本神経学会専門医 47 名、日本アレルギー学会専門医 22 名、日本老年医学会専門医 9 名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者 43,150（1 ヵ月平均）　　入院患者 1,835 名（1 ヵ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本神経学会専門医制度認定研修教育施設 日本脳卒中学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設

	日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

10. 日本赤十字社愛知医療センター　名古屋第二病院

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	指導医が 15 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2021 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 9 回、感染対策 9 回） 研修施設群合同カンファレンス（2021 年度 1 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2021 年度実績 10 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2021 年度実績 9 回）
認定基準【整備基準 24】3） 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】4） 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	糖尿病・内分泌内科副部長　東　慶成
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 15 名 日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 3 名
	日本腎臓病学会専門医 11 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名

	日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 5 名
外来・入院患者数	外来患者 33,181 名（1 ヶ月平均実数）、入院患者 1,859 名（1 ヶ月平均実数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設

11. 半田市立半田病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・半田市常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルヘルスに適切に対処します. ・ハラスメントに適切に対処します. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後保育を含め，利用可能です.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は12名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績 12回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPCを定期的に開催（2021年度実績 4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021年度 5 演題）をしています.
指導責任者	神野　泰 【内科専攻医へのメッセージ】 半田病院は、愛知県知多医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、地域住民に信頼される内科専門医を目指します. 主担当医として、入院から退院＜初心・入院～退院・通院＞まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成しています.

指導医数 （常勤医）	日内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名、日本消化器病学会専門医 7 名、日本循環器学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本救急医学会専門医　3 名
外来・入院患者数	外来患者　16,847 名（1 ヶ月平均）、入院患者　11,288 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 植え込み型除細動器/両室ペーシング植え込み認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 腹部ステントグラフト実施施設 など

12. 藤田医科大学病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 65名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022年度実績 18 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2021 年度実績 14 演題）
指導責任者	後藤　康洋 【内科専攻医へのメッセージ】 藤田医科大学病院には 12 の内科系診療科（救急医学・総合内科,循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化管内科、血液内科・化学療法科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、臨床腫瘍科、脳神経内科、認知症・高齢診療科、感染症科）があり,内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。また，救急疾患は救命救急センター（NCU,CCU,救命 ICU,GICU,ER,災害外傷センター）および各診療科のサポートによって管理されており，大学病院、特定機能病院としての専門的高度先進医療から尾張東部医療圏の中核病院としての一般臨床、救急医療まで幅広い症例を経験することが可能です。院内では各科のカンファレンスも充実しており、またキャンサーボードなど多職種合同検討会やアレルギー研究会など科を越えた勉強会検討会も数多く実施しております。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　65名 日本内科学会総合内科専門医　55名 日本消化器病学会消化器専門医　31名 日本循環器学会循環器専門医　21名 日本内分泌学会専門医　10名 日本糖尿病学会専門医　5名 日本腎臓病学会専門医　12名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　15名 日本血液学会血液専門医　10名 日本神経学会神経内科専門医　6名 日本アレルギー学会専門医（内科）　4名 日本リウマチ学会専門医　14名 日本感染症学会専門医　2名 日本救急医学会救急科専門医　13 名
外来・入院患者数	外来患者　3,507.7 名（2022 年度 1 日平均） 入院患者　1,331.0 名（2022 年度 1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本甲状腺学会認定専門施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設

	日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

3) 専門研修特別連携施設

1. 医療法人開生会　かいせい病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が１名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	
指導責任者	菅　榮 【内科専攻医へのメッセージ】 老人保健施設、デイサービスを法人内に有し、地域密着型のベッド数４１床の小病院です。 総合病院では経験できない地域医療を体験することができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　0名 日本内科学会総合内科専門医　1名 日本消化器病学会消化器専門医　1名 日本循環器学会循環器専門医　0名 日本内分泌学会専門医　0名 日本糖尿病学会専門医　0名 日本腎臓病学会専門医　0名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　1名 日本血液学会血液専門医　0名

	日本神経学会神経内科専門医　0名 日本アレルギー学会専門医（内科）　0名 日本リウマチ学会専門医　0名 日本感染症学会専門医　0名 日本救急医学会救急科専門医　0名
外来・入院患者数	外来患者　2,100 名（1 ヶ月平均）、入院患者　670 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	

2. 医療法人純正会　名古屋西病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（前年度実績　医療安全・感染対策　各2 回） ・定期的に研修施設群合同カンファレンスを参画す、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	
指導責任者	山本　俊勇 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は一般病床56床・地域包括ケア病床18床・療養病床38床を有しており、急性期から回復・療養期までの臨床を幅広く経験することが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　0名 日本内科学会総合内科専門医　6名 日本消化器病学会消化器専門医　2名 日本循環器学会循環器専門医　1名 日本内分泌学会専門医　0名 日本糖尿病学会専門医　0 名 日本腎臓病学会専門医　1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　1 名 日本血液学会血液専門医　0 名 日本神経学会神経内科専門医　0 名 日本アレルギー学会専門医（内科）　0 名

	日本リウマチ学会専門医　0名 日本感染症学会専門医　0名 日本救急医学会救急科専門医　0名
外来・入院患者数	外来患者　4,421名（1ヶ月平均）、入院患者　3,265名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

3. 小樽掖済会病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理センター、総務課）があります。 ・衛生委員会にてハラスメントを協議しています。 ・女性専攻医が安心して勤務出来る様に、休憩室、更衣室、当直室（シャワー、仮眠可）が整備されています。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・消化器内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 （2021年度実績　医療倫理　0回、医療安全　2回、感染対策　2回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本消化器内視鏡学会・日本消化器病学会及び、同地方大会などに年間11演題の発表を実施しております。（2022年度実績）
指導責任者	副院長兼消化器病センター長　　勝木伸一 【内科専攻医へのメッセージ】 小樽掖済会病院は、北海道小樽市のみならず近隣の札幌市及び後志町村からも消化器に疾患を抱えた患者の治療を行う急性期病院です。当院は、胃癌手術、内視鏡手術、大腸癌手術、下層粘膜剥離術において北海道内の病院で常に上位の症例数を行っており、先進の技術を経験することが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医　1名 日本内科学会総合内科認定医　2名 日本消化器病学会指導医　1名 日本消化器病学会専門医　6名 日本消化器内視鏡学会指導医　1名 日本カプセル内視鏡学会読影専門医　1名 日本消化管学会胃腸科専門医　1名

	日本消化管学会胃腸科暫定教育医　　1名 日本肝臓学会認定肝臓専門医　　2名 日本消化管学会胃腸科認定医・胃腸科専門医　　1名 日本がん治療認定医機構かん治療認定医　　2名
外来・入院患者数	外来患者　2,346 名（1 ヶ月平均）、入院患者　2,168 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器系疾患について経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医（特に消化器内科）に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医療機構認定研修施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設

4. 長崎掖済会病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が補償されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室等が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	
認定基準 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急分野で

3)診療経験の環境	定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 当院は一般病床99床と地域包括ケア病床43床を有しており急性期から回復期までの臨床を幅広く経験することが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　0名　日本内科学会総合内科専門医　1名 日本消化器病学会消化器専門医　0名　日本循環器学会循環器専門医　2名 日本内分泌学会専門医　0名　日本糖尿病学会専門医　0名 日本腎臓病学会専門医　1名　日本呼吸器学会呼吸器専門医　0名 日本血液学会血液専門医　0名　日本神経学会神経内科専門医　0名 日本アレルギー学会専門医（内科）　0名　日本リウマチ学会専門医　0名 日本感染症学会専門医　0名　日本救急医学会救急科専門医　0名
外来・入院患者数	外来患者　3,688名（1ヶ月平均）、入院患者　2,558名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群高目表）にある13領域、70疾患の症例を経験する事ができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は救急輪番病院及び地域包括ケア病棟を有し、救急医療から超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などが経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設